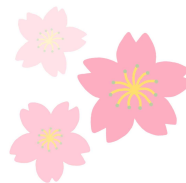


さくら



令和5年5月29日(月)

広い視野で物事を見る



物事に対する考え方は人それぞれです。ある事象に対して自分は正しいと思っていても、それを正しくないと思う人もいるかもしれません。当然、その逆のことも生じます。

世の中では、このような考え方の相違からトラブルになることもあります。2年前、コロナの状況下において、公共の場でマスクをしていない人への強い抗議を目撃しました。

スーパーマーケットで、マスクを着用していない高齢の女性がい物をしていました。そうしたところ、近くにいた男性が大きな声で、「マスクつけなあかんやろ」と怒鳴りつけたのです。周囲の客は立ち止まって怒鳴り声の方向に視線を向けました。

怒鳴られた女性は、男性に何か言ってました。マスクをつけていない事情を説明しているようにも見えました。それでも、男性は「ルールはルールや」と大声を上げるのです。不穏な空気が漂い始めると、店員さんがやってきてどうにかその場をおさめてくれました。

この場合、男性の主張は正しいのでしょうか。マスクの着用が推奨されている時期でしたので、その主張は一概に間違いとは言えません。しかし、相手の事情も確かめず、言い分に耳をかさずに一方的に怒鳴るのはいかながなものかと思います。また、感情的に大きな声で相手を威嚇(いかく)する行為もいただけせん。

人は自分が正しいと思うと、心の視野が狭くなり、周囲が見えなくなってしまうことがあります。また、他者の過失には敏感であっても、自分の過失には鈍感な場合があります。

どのような場合でも、他者の事情に思いをはせ、自らを振り返り、広い視野で人や物事を見ることのできるようになりたいものです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

